

ディアコニア



巻頭言

エツセンシヤル・プレイヤ―

ルカによる福音書22章31〜34

牧師 佐藤 千郎

「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」

主イエスは、その日の食事が一段落した時、食卓を囲んでいた弟子たちの代表ともいえるペトロにそう言われました。その日の食事とは、後にキリスト教会で、主イエス・キリストの十字架の死を記念する最も大切な礼典である、「聖餐式」の起源となる「最後の晩餐」です。

主イエスの復活後キリスト教会の誕生に深く関わった弟子たちにとって、「最後の晩餐」は、忘れることの出来ない出来事として記憶されたことでしょう。それだけに、その夜語られた主イエスの言葉の一つ一つは、弟子たちの魂に深く刻

まれたに違いありません。

「最後の晩餐」から約二千年後の私たちは、聖書に遺されたこのみ言葉を読むとき、この言葉が、その夜語られたもう一つの言葉と結びついていることに、思いを傾げざるを得ません。

主イエスが祈ってくださることに心動かされたペトロは、「主よ、ご一緒になら牢に入っても死んでもよいと覚悟しています」と、主イエスに従う決意のほどを吐露します。

ところが、主イエスの返事は「ペトロ、言っておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう」という、思いもよらぬペトロの裏切りの予告でした。

この言葉に、ペトロがどんな思いを抱いたか、聖書は触れていませんが、「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」という言葉が、その夜の出来事と切り離しがたく結びついているところに、

現代の私たちは、主イエスの赦しと執り成しの祈りこそが、キリスト教会の誕生と形成の原動力となった、その信仰の原点を読み取ることが出来ます。

キリスト教会は、どのような時代の中にあつても、「神の栄光」のために熱心に祈り、心を尽くして礼拝を守り、困窮の中にある貧しい人々のためにと活動してきましたが、その時代その時代の動きに翻弄され、時には権力と手を組み、寄り添うべき人々を見捨て、背信を重ねてきた現実があつたことを、否定することは出来ません。

しかし、時代の暗闇が、個々の信仰者の心を揺り動かし、神への信頼を危うくし、教会の背信を増幅していく中でも、教会を通して語られ、信仰者に届けられた主のみ言葉は、不思議と、その輝きを失うことはありませんでした。

どこかで、誰かが、その輝きを受け継ぎ、照り返し、不安と恐怖の中に生きる人たちに寄り添い、み言葉と奉仕の業をもつて、希望を与えてきた、その足跡を

たじることが出来ます。

冒頭の聖句に思いを巡らせていると、教会が背信へと堕ち、過ちを犯しつつも、み言葉が輝きを失うことなく、希望の灯りを灯し続けることの出来たその原点、即ち祈りの源流が、「最後の晩餐」とことで語られた主イエスのみ言葉であることに、わたしは気づかされました。更にみ言葉に導かれつつ夢想していますと、一つのことが思い出されます。

神奈川県横須賀市にある日本キリスト教団田浦教会は、我が国の敗戦後、精神的復興を願う内外キリスト教会(団)の、祈りと援助によって設立された、横須賀基督教社会館の働きの中から生まれた教会です。

この教会は、毎年九月第一日曜日を「社会館のために祈る日」と定め、横須賀基督教社会館への祈りと献金がささげられています。当日は社会館の職員も礼拝に出席、施設や日頃の働きの内容について紹介し、教会の祈りや支えに感謝を述べています。

今年 is 新型コロナウイルスの影響で、施設紹介など割愛せざるを得ませんでした。が、わたくしは社会館を代表して挨拶を致しました。

この挨拶の中で、新型コロナウイルスを機に、社会福祉を担う「ソーシャル・ワーカー」もまた「エッセンシャル・ワーカー」であることに気づかされた経緯をお話した後、おおよそ、次のように言葉続けました。

「エッセンシャル・ワーカーとは、この社会で人が安心して暮らしていくための必要不可欠の働き手、換言すると、人間社会のあるべき姿の本質、に欠くことのない働き手です。

それは、旧約聖書の創造物語の中で、神が、『人が独りでいるのは良くない、彼に合う助ける者を造ろう』と言われたことを想起させ、この言葉に込められたメッセージが、エッセンシャル・ワーカーに重なります。(中略)

更に、日頃から社会館のためにお祈りくださっている皆様と教会のお祈りに、聖書(主イエスのみ言葉)の言葉を重ね

て気付かされたことは、言葉遊びのようになりませんが、エッセンシャル・ワーカーを支える教会の祈り(プレイヤー)は、『最後の晩餐』における主イエスの赦しと執り成しの祈りにまで遡ることの出来る『エッセンシャル・プレイヤー』であると言ふことです。そして、この『エッセンシャル・プレイヤー』こそが、キリスト教社会福祉を生み、支え、育て、豊かな稔りを約束する希望の基(モトイ)として、厳しい福祉の現場にある人々に、今も仕事を続ける勇氣と力を与えているのだと、思えてくるのです……(後略)」

ベテスタ奉仕女母の家も、エッセンシャル・ワーカーに恵まれ、困難な中でも支障なく事業を続けていますが、何よりも、「エッセンシャル・プレイヤー」に支えられている日々思いを傾け、主イエスの赦しと執り成しを思い、皆様の熱き祈りに感謝を深くしています。

(ベテスタ奉仕女母の家・理事)

性暴力は「自分を生きる事」を奪う許せない犯罪です！

横田千代子

性暴力とは？

Aさんは、中学3年生の時に、父親の子を中絶した過去を抱えています。その行為は主に浴室で繰り返され、逆らうと首をつかまれ、浴槽の中に顔を突っ込まれました。力ずくの行為から逃れることは出来ませんでした。「赤ちゃんは男の子だったよ」軽度の知的障害を抱えているAさん。その事がどんなにひどい行為であったか言語化もできず、胸の奥深くしまい込んでいたのですが、心の傷はAさんの行動に陰を落としていました。「お風呂はこわいよ！」浴槽の揺れる波が怖くて浴槽につかることが出来ませんでした。

Bさんは、幼児期から18歳まで義父に性虐待を受け続けました。幼いころから「誰にも言っってはいけない！」と言われ続けて、怖くて誰にも言わず苦しみまし

た。「母はそのことに気づいていたと思う、でも助けてくれなかった」と話しています。その行為が何であるかを知った時、その苦しみから逃れたくて、義父に懇願しましたが、脅され叶いませんでした。「父から早く逃れたい」そんな思いで男性と付き合い始めましたが、その男性からも暴力を受けたのです。その後、結婚しましたが、夫からも激しい暴力がありました。幼くして自尊心を奪われたBさんは、自己評価が低く、相手に合わせる事でしか関係を築けません。「私は信頼されると不安になります」そう話していました。

Cさんには軽度の知的障害があり、5歳の時に実父から性虐待を受けました。その後、実父と父の知り合いの男に車の中に連れ込まれ、性暴力を受けました。「逃げることは出来なかった」。悲しもうに過去を語ってくれました。実父は自分の娘を男に売ったとしか思えません。生活の中で幻視に悩まされ、壁に向かって物を投げる、大声で泣き叫ぶなどの行動が繰り返されました。トラウマ治療がで

きる病院に入院しましたが、その治療には困難を呈しました。治療の度にフラッシュバックに悩まされ、その困難な生活は長く長く続いているのです。

子ども期への性暴力被害が及ぼす影響

最も信頼関係にあるべき保護者からの性暴力は、子どもに性行為を愛情と取り違えさせてしまい、成長してからも二次被害に遭いやすくさせてしまうことがあります。

性暴力による被害は解離症状、自傷行為、抑うつ感情障害などの精神障害をもたらします。子どもたちは、自分が受けている行為を性暴力として認識できず、逃げる事も誰かに訴える事も出来ず、継続して被害を受け続ける状況に置かれてしまうのです。「子どもだもの、逃げることは出来なかったよね。我慢してそこにいることしかできなかったものね。」私は利用者によくそう話します。

子どもたちは受けた被害の大きさを、また、その事がもたらす長期的な影響の被害の深さを知る由もありません。まし

て、性暴力が自分の生きる力を奪う犯罪とは微塵も思っていないのです。

生きづらさにつながる性暴力被害

「生きていく意味が解らない」「自分なんていい方がいい」「私の事なんかどうでもいいと思ってるでしょう」何人もの女性たちから聞かされてきました。被害を受けて来た女性たちはすべてに對して無為になるのです。「眠れない」「いらいらする」「食べたくない」。生活

の中でも自らを傷めつける行為が目立ちます。仲間との距離が上手く取れず、信頼関係を築くこともできずトラブルを生んでゆきます。不安から手首を傷つけるなどの自傷行為を繰り返し返す人もいます。

それらは性被害による「後遺症（PTSD）」なのです。後遺症は自分を生きる一歩を妨げます。他者からの侵害行為は、「生きづらさ」に繋がります、理不尽な人生の時を強いられるのです。

性暴力被害を受けた女性たちの回復への光を求めて

性被害からの回復には長い時間と、共に向き合う支援者の深い理解と、専門的な治療が必要だと思えます。

自らの性被害を語るといことは、信頼関係なくしては出来ないことです。語る事は、残酷で困難な作業でもあるのです。もう一度忌まわしい過去と向き合わなくてはならないのです。怒りや悲しみや恐怖や屈辱感をさらけ出さなければなりません。できれば「避けたい」のが本心でしょう。

でも「語る」作業に勇気を出して欲しいと願っています。支援者はこの傷みを共有し、語る勇氣に對してその人の尊厳を尊重して聞かなければなりません。その支援は「日常」の中にあるのです。最も身近にいて大きな存在である支援員は「語れる空気」を生み出せる専門性を持つことです。

性被害回復に必要な専門的な治療、医療実践

被害からの回復支援に専門的な治療が必要な事を痛感しています。今、いずみ

寮では専門的な医療実践と向き合い始めています。毎月第一金曜日に白川美也子先生（トラウマ治療の第一人者）に来て頂き、専門的な治療が始まっています。その場に、心理職員と担当職員が同席します。治療場面での支援の共有です。いま、専門的治療による効果が見え始め、「生きづらさ」からの回復につながることを願っています。

性暴力被害を生み出している社会を変えて

性暴力は「自分を生きる」ことを奪う犯罪です。特に子ども期からの性虐待は傷がとて深く、その傷からの回復が非常に困難であるか。女性たちに出会う度に心が傷みます。私たちは性暴力・性虐待の回復のために専門的な治療機関の必要性を訴え続けています。

日本には被害からの回復のために、中期以上に治療を受ける場所がありません。これ以上被害者を生み出す社会は終わりにしなければなりません。社会全体からの声が必要です。（いずみ寮 施設長）

「祈りの友」に感謝して

細井陽子

私は1955年4月18日に、第二期奉仕女志願者6名の中の一人としてベテスダ奉仕女母の家に入館しました。

入館の条件は「十人の祈りの友」を探すことでした。65年という長い年月を回顧し、殊に苦境の時々祈りの友の方々のお祈りに助けられましたので、その交わりを感謝して記します。(敬称略) 祈りの友の方の中には、交流の深かった方、一度もお会いした事のない方もおられます。

1 横堀三千代 前橋教会時代からの信仰の友。養護施設「子持山学園」に勤務され、後に「横堀ホーム」を設立。現在まで代表者。

2 木戸サト子 前橋教会員

3 木暮 牧子 私の妹

4 館野 礼子 深津館長の紹介で。

5 勝山 晶子 京都、桂保育専門学院

坪田 敏子 桂保育専門学院院長。

郷里が群馬県で交流、京都へも泊まりがけで伺いました。

6 和田 信子 西片町教会より日立教会牧会をなさり、現在引退される。西片町教会には何回か伺いました。

7 石浜 広子 清水 芳子

星野 幸子 高木 和子

森田 正子 前橋教会青年会有志。

石浜さんが送ってくださっていました

8 小林美恵子 川崎市在住でご自宅にも伺い、文通が多く交流の深い方。

9 Anne Fiehner アメリカの宣教師で深津館長の紹介で祈りの友になってくださる。書面はなく、短期間だった。

10 村松 夏子 深津館長の紹介で手紙は何回か頂きましたが、お会いしたことはない。

11 松浦富久江 東京大学医学部、臨床検査技師、山歩きの転落事故で亡くなられた。

12 細井 まつ 私の母。献身に反対でしたが、8月22日私の誕生日に加須のベテスダに家族として招かれてから、深津館長の生き方に共感して祈りの友に。

- 13 下斗米ヒデ 友人の紹介(不確か)
- 14 金原 つる 茂呂時代の人で文通のみで、お会いしたことはない
- 15 小泉 松枝 鎌倉雪の下教会会員。晩年、衣笠ホームのボランティアをなさり、代々キリスト教の家系。鎌倉のお宅へ伺ったり、交流のあった方。
- 16 小泉喜久美 オルガン奏者・小泉松枝姉の召天後、代って祈りの友になる。
- 17 小泉 元生 小泉喜久美姉召天後、祈りの友になられる。
- 18 棟居 愛子 文通のみでお会いしたことはない。
- 19 二本 富子 台東区日本橋の大きな綿織問屋の社長で、いずみ寮のバザーの時に寄付品を沢山いただく。
- 20 橋本 展子 いずみ寮、ベテスダの関わりの交流を通して親しい方
- 21 井上 恵子 井上 健 ご夫婦でかわってくださいさる。文通のみ。
- 22 木田みな子 パイプオルガン奏楽者の会主宰。現在、最も身近な友として関わっていたらいている。
- 23 阿部 昭子 沼田教会員。「ベテス

「ダの日」には必ず出席してくださいとされる方で、入信してからの無二の友。

24 中出 礼子 小泉さんの友人。

25 大村 きみ シロアム教会の牧師夫人。日本盲人伝道協議会での交流。

26 前田 和子 城崎く姫路く高知で牧師夫人として活躍される。共愛学園で同年代をすごした親友で、赴任先へ泊りがけで伺い交流する。

27 吉澤 和子 前橋教会青年会の友。

28 阿佐智恵子 日本盲人伝道協議会での交流。ご主人はこの会の主宰で活躍。

29 大木 松子 バングラディシユを支える会代表者。牧師。

30 杉本 祥子 いずみ寮の関わり。

31 瀬川 千代 日本盲人伝道協議会での交流。

32 三宅美弥子

33 井村 明子 お会いしたことのない方

34 無藤 信子 初期の法人役員、池田春江様の関係。横浜へ伺って交流し、現在迄、お支えを送ってください。

35 倉持 敏子 牧師夫人、清水ヶ丘教会なられる。

の集まりの時、祈りの友になられる。

36 片柳 定子 茂呂塾児童団で長く一緒に関わった方。

37 黒澤すぎの 清水ヶ丘教会の集まりの時に祈りの友になられた方で、文通による交流。

38 阪本 英子 木田みな子さんの友人。メールマガジン編集者。

39 石井珠江(旧姓倉岡)清水ヶ丘教会の集まりの時に、祈りの友になられる。

40 金子 弘枝 阿部昭子姉の友人、沼田教会員。バイオリン奏者。

41 原田 恵子 いずみ寮の関わり。

42 朝倉 和子 片柳

43 定子姉の娘でピアニスト。

43 川原 妙子 私の妹。

44 原田 純子 身近で交流している方。

45 吉田やす子 大泉

45 ベテル教会に出席されていた時、祈りの友に

わがうるわしきたから

Mein schönste Zier

Leipzig, 1573

Nürnberg, 1581

Musical score for 'わがうるわしきたから' with lyrics in Japanese and German. The score is in G major and 3/4 time, featuring a melody and a piano accompaniment.

祈りの友になられた方合計 52名
現在 連なっておられる方 12名
すでに召された方 17名
交流のとれない方 23名

聖歌

ディアコニ誌の初期には毎号、美しい聖歌が載っていました。母の家でよく歌いまして、今は残念なことに殆ど歌われませんが、私の心境から13号「わがうるわしきたから」を選びました。

(奉仕女)

施設だより

50年目の作六窯

天良さゑ子

【さっちゃん】「粘土の塊がオダンゴになり、そのオダンゴが地球ひとめぐりして戻ってきても待っている」と言い切った深津牧師との出会いから50年たった今も、彼女は粘土を捏ね、作陶を楽しみ、誇りに思い、健やかに育ち成長している。82歳になっても尚、

このゆつくりゆつくり成長する時間を、かにたという地が彼女に与え続ける

事が出来ているということは奇跡。神様からの贈り物です。

【トキちゃん】長年勤めたパン作りの班の立ち仕事が大変になったからと、今年3月、座って出来る大好きな編み物をす



る予定でやって来ました。ところが、「私もやる」と80歳にして初めての器作りに挑戦。パン作りで取った杵柄、粘土の塊がみるみる器に。一心不乱、無我夢中で薄くしすぎて穴が開くと、自分で修繕

さえしてしまいました。両手ですっぽり包める大きさの粘土の塊から、小鉢、お皿、お湯のみと生まれてきます。「同じものばかりだとつまらないんだ」と出

来たのが不思議なフリルのついた花瓶。眺める顔から笑顔が零れ落ちました。窯の高熱に耐えてトキちゃんの手元にもどるか、心配です。

【せっちゃん】入所以来50年近く通い続けた農園を辞め、ユツカ寮（高齢者棟）



で生活するようになりました。「まだ働きたい」と、デイサービスに行かない4日間は、陶芸班にやって来ます。78歳と思えない若々しい姿です。作業はトキちゃんの2年先輩ですが、50年前のさっちゃんのように、なかなか形にならず、いつの間にか平らな形になってしまいます。そこへ、ライバル・トキちゃんの出現。ある朝、やって来るなり「トキちゃん、感じ悪い。粘土いっぱい作って。」と言うなり帰ってしまいました。それから1週間のお休み。お布団の中。ところが出て来たせっちゃんを目覚まし成長。ときちゃんの方をちらりちらりと見ながら作る事作事。全身喜びをあらわにしコップ、茶碗、小鉢らしきものが12個生まれました。ある日、施設内診療に

出かけたせつちゃんがあつという間に帰ってきました。「こんな所でゆつくり

しておれないの。私仕事が忙しいんだから。と顔をキラキラ輝かして帰って行った」と、医務室から連絡がありました。トキちゃんの出現はせつちゃんの作陶開眼となりました。

【といきさん】 大きな作品作りが得意です。大皿、壺。粘土がどンドン使われていきます。準備の粘土が足

りる心配になります。麻痺があるのか少々体が傾き、その上左利き。いつの間にか左に傾き加減の作品になります。またそれが面白いとなります。一番のしやべりですが作陶中におしゃべりはありません。太い紐積みで得体のしれぬものが積み上げられていきますが最後に大

皿へ変身します。細く柔らかな指から生まれてきたとは思えない力強い作品です。



【はつちゃん】 再発した乳癌を抱えながらの10年。10年も健康に近い生活が出来た事を感謝すべきと言われても、陰ひなたなく働くはつちゃんが今、ホスピス

「花の谷」での療養を余儀なくされていることは、余りにも過酷な現実です。彼女の無償の労働なしには陶芸班の再開はありえません。数年間使われずにいた釉薬・粘土を使えるようにするには、力と根気を伴う重労働でした。繊細で優しく、甘えん坊のはつちゃんが作るものは繊細さとは反対、大らかでどっしりとして、あつたかで存在感があります。そして作陶する姿は陶工の眼差しです。もう

一度窯場に帰って来られる事を願わずにはいられません。

【手仕事】 作六窯を守る陶芸班には、もう一つの顔があります。手仕事です。陶芸は使ってもらえるものを作る事を目指していますが、手仕事は一切の制約なし。編み物、刺繍、板と釘製の機織。自由な心の営みの中で生まれる作品は芸術性が高く、目を見張る美しさがあります。有名な美術館の学芸員の方が観て、「ここに創作の原点がある」と。ただ残念なのは以前の様に豊富に材料が手に入らないことです。



いつの日にか大きな会場で多くのの人に観ていただく事を夢見ています。

(かにた婦人の村陶芸班)

ゆくよこ

シゲタマツヨシ
ひとこと

生かされし歲月重き終戦日

みまかりし人をしのぶや白桔梗

相入れぬ心黙して露けしや

コロナ未だはびこり止まず秋の雨

哀愁のハーモニカの音秋深む

植木 道子

*

かいた婦人の村の「建て替え計画」が難航し、必死に行政に働きかけているところ。2015年秋、かいた50周年記念を機会に、建て替え計画がスタート。行政に申請し、協議を重ねて進められてきた計画では、昨年度と今年度の実現さ



れるはずでしたが、

難問題に直面して頓挫。これを打破すべく、行政と交渉・協議を重ね、実現に向けて努力中

です。コロナ禍の中、忍耐しつつ祈りつつ。どうぞ皆様方もご加勢ください

よう、切にねがっています。天羽 道子

*

桜庭歌子

と小川都代

のふたりは

相浜ガーデンで、健康

に過ごして

います。季節の行事でスイカ割りを楽しんで

んだり、スタッフの作ったカードを敬老

の日にブレ

ゼントされ

て喜んだり。

その様子を

ごらんくだ

さい。

真山 知恵子

*

9月中旬から築58年のベテスタ奉仕女母の家の修繕が始まりました。全館に足場が組まれ、防じん用の幕がつけられて、まるで「おり」の中にあるような、何とも表現しにくい毎日です。

私は身体のトラブルと対応しながら多くの人に助けられ、感謝しております。

庭先には「彼岸花」が美しく咲き、秋の日ざしに照らされて人々の心を優しく包んでいます。自然は大きい。

細井 陽子

*

細井 陽子

おかげさまで相変わらず、老人施設で

元気にすごさせていただいて居ります。

今日はホームの中の床屋さんへ行ってきました。半年ぶりなので急に頭が軽くな

った様な感じでした。

世の中はコロナ問題などでさわがしい

のに、老人は何もできずテレビニュース

で知るぐらいです。せめて元気で居るのが

が自分の役目と思つて居ます。皆様もど

うぞお元気で。祝福をお祈り致します。

真山 知恵子

真山 知恵子

2019年度（令和元年度）決算報告書

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

賛助金・寄付金
ありがとうございました

浅野康子 八重樫真理子 大沼千穂 大 男 森史子 村田充子 有限会社フアー
 沼昭彦 田村和子 吹春富恵子 柴山操 ムニシヤマ 佐藤聡美 黒川裕子 安東
 光の子どもの家 平山嘉繁 加藤明彦 優 後藤信子 花田こずえ 加藤隆子
 横田哲子 横田碩子 池田直子 加藤大 今井佳代 石床愛次 熊田てる子 富室
 大浜重紀 畠山重信 居谷教子 菊地幸 磨致子 水野佳子 立教女学院小学校
 野呂尚子 牛込

勘定科目		決算額	
事業活動による収支	収入	保育事業収入	183,585,216
		就労支援事業収入	14,330,370
		障害福祉サービス等事業収入	17,307,280
		婦人保護事業収入	225,850,538
		借入金利息補助金収入	110,000
	経常経費寄附金収入	20,855,200	
	受取利息配当金収入	11,508	
	その他の収入	22,612,446	
	事業活動収入計(1)		484,662,558
	支出	人件費支出	336,744,472
事業費支出		67,713,319	
事務費支出		39,386,697	
就労支援事業支出		13,352,734	
日中作業支出		3,401,738	
支払利息支出		130,013	
その他の支出	9,562,227		
事業活動支出計(2)		470,291,200	
事業活動資金収支差額(3) = (1) - (2)		14,371,358	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	△ 476,000
		施設整備等寄附金収入	10,700,000
	施設整備等収入計(4)		10,224,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	1,507,000
		固定資産取得支出	17,409,770
ファイナンス・リース債務の返済支出	485,828		
施設整備等支出計(5)		19,402,598	
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)		△ 9,178,598	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	4,451,780
		その他の活動収入計(7)	4,451,780
	支出	役員等長期借入金元金還元支出	400,000
		投資有価証券取得支出	3,000
		積立資産支出	8,014,790
		その他の活動による支出	△ 77,000
その他の活動支出計(8)		8,340,790	
その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)		△ 3,889,010	
当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)		1,303,750	

*2019年度事業報告並びに資金収支決算書は、法人ホームページに公開されています。

古仲邦子 洋子 鈴木基弘 大宮 会 大曾根聡子 浦教会エレミヤ 下恭二牧師 田 弘方町教会山ノ 野呂尚子 牛込 10月29日分 (敬称略) 7月

★理事会・評議員会報告

第229回理事会 7月9日(書面決議)

【審議】

第1号 令和元年度事業報告並びに決算報告書の案承認の件

第2号 第15回定時評議員会開催の件

第3号 第15回定時評議員会決議事項の件——理事・監事全員の同意・確認により原案通り承認議決された。

第15回評議員会 7月20日(書面決議)

【報告】(文書報告)

第1号 令和元年度事業報告書承認の件

【審議】

第1号 令和元年度決算報告書承認の件

第2号 令和元年度財産目録承認の件

——評議員全員の同意・確認により原案通り承認された。

第230回理事会 9月25日

於法人本部(テレビ会議と併用)

【報告】第1号 業務執行理事報告の件

【審議】第1号 第一次補正予算案の件

——理事・監事全員の同意・確認により

原案通り議決された

★計 報

長い間細井陽子の祈りの友としてお支え下さいました黒澤すぎの姉が6月19日召天されました。生前のお交わりを心から感謝し、ご遺族の皆様天父の深い慰めと平安をお祈りいたします。

★日々の聖句2021年版

日々の聖句2021年版を販売開始致しました。ご希望の方は、法人本部にお申込みください。

2020年版から、読みやすいように字体を変更しましたが、今回は編集者として菊地純子牧師に加わっていただき、ドイツ語版(LUTHERBIBEL2017)の翻訳により御言葉の力強さを味わうことが出来るようになります。

また、ヘブル語やギリシャ語の本来の意味を伝えるために、どの日本語訳を載せるかを検討し、新たに2018年出版の「聖書協会共同訳」も取り入れた部分もあります。巻末には新たに「聖書名略語一覧表」を追加しました。

これらの試みが、皆様の「日々の聖句」

にたいする更なる理解を深めていただき、また、使いやすさ向上の為の一助となりますよう編集者一同願っております。(村田)

★編集後記

主のたいなる御名を讃美いたします。皆様からお寄せ頂きましたご支援に心から感謝申し上げます。

コロナ禍の中でも、皆様のご健康と平安が守られ、良きクリスマスをお迎えできますようお祈り申し上げます。

2020年11月15日発行(年3回)

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

印刷所 (株)印刷センター

発行所

〒178-0061

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタダ奉仕女母の家

電話 03-33924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座000190-21138164